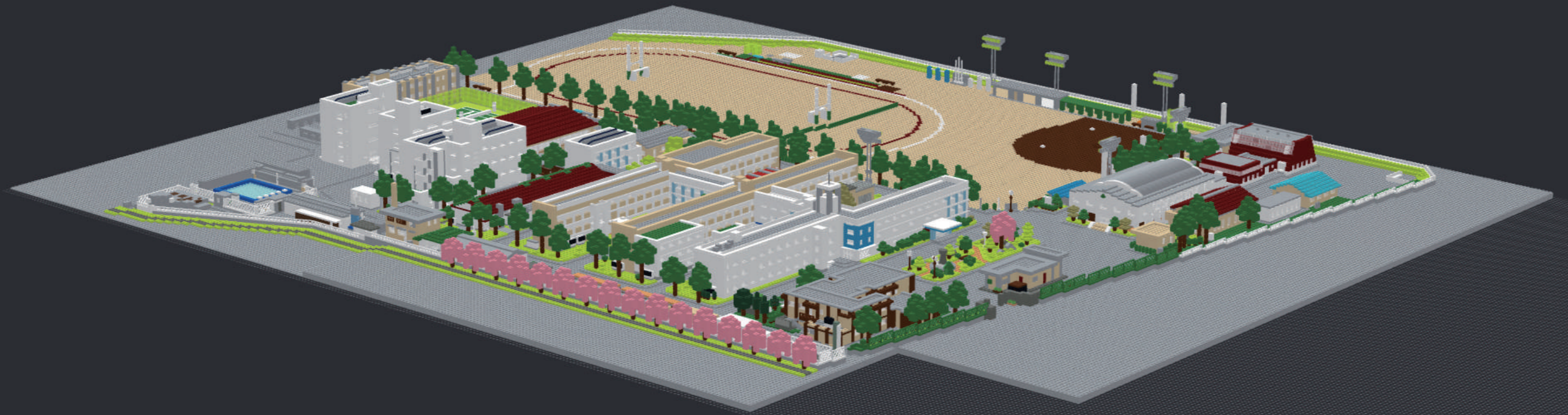


# 国立岐阜工業高等専門学校 施設整備マスタープラン 2025



CG 製作：岐阜高専 LEGO 同好会





# ■施設整備マスタープランの作成に向けたワークフロー

## Phase1 マスタープランの内容及び施設整備の状況、課題の把握

計画案作成に向けて、現在の施設整備の進捗状況や施設整備に関する課題、及び施設整備に関連するプロジェクトの現状、及び将来目標について把握をする。同時に意見聴取のプロセスを通じて全学的に施設整備マスタープラン作成に向けた取り組みについての理解を深める。

### ■既存計画についての情報整理

近年の営繕事業、概算要求事業の実績について、及び、現在懸案となっている、あるいは老朽化、陳腐化などにより近々に改修等の議論が必要になると考えられる施設について状況を把握する。

### ■学内の課題の洗い出し

・学科、事務部など各セクションから現在、岐阜高専が抱えている問題や整備への期待について吸い上げる。  
・各施設の面積、区分について整理し、把握する。

### ■教育・研究に関する取り組みの把握

・主事、WG長からの聞き取りを通して、スタートアップ、国際交流など現在取り組まれているプロジェクトの状況と今後の見通しについて把握する。

## Phase2 マスタープランの具体的方策の検討

Phase1で把握された状況や課題に対して対応策を検討することを通して、今後の施設整備のあり方に関するWG内での議論を通して、施設整備の方向性についての検討を行う。

### ■現在抱える課題への対応策について

・施設整備に関する課題について、その緊急度及び対策について、検討する。

### ■岐阜高専が進める教育・研究事業との関わりについての検討

・現在取り組んでいるプロジェクト、あるいは今後進めようとしているプロジェクトを加速するために施設整備マスタープランが果たす役割について具体的に検討する。

### ■現在抱える課題への対応策について

・対象として挙げられた施設や箇所の位置を確認するとともに敷地全体での機能のレイアウトについて検討を行う。

### ■制約条件の把握

・高専機構の事業上の制約（延べ床面積、各種制限や改修などの要件）の確認・把握  
・法的側面からの制約（接道義務、用途制限・・・）の確認・把握  
・その他

## Phase3 マスタープランの方針設定

Phase2までの議論を整理し、施設整備マスタープランのコンセプトをWG内で確定し、コンセプト実現に向けての具体的方針を設定する。

コンセプト：様々な取り組みや課題を踏まえ、学校の今後の発展のあり方に寄り添った施設整備計画の方向性を設定する。

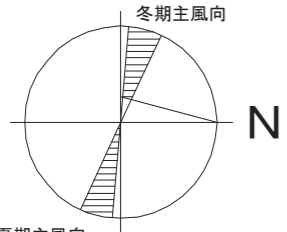
・コンセプトを具体化するための目標を設定する。

## Phase4 施設整備の具体的計画案の作成

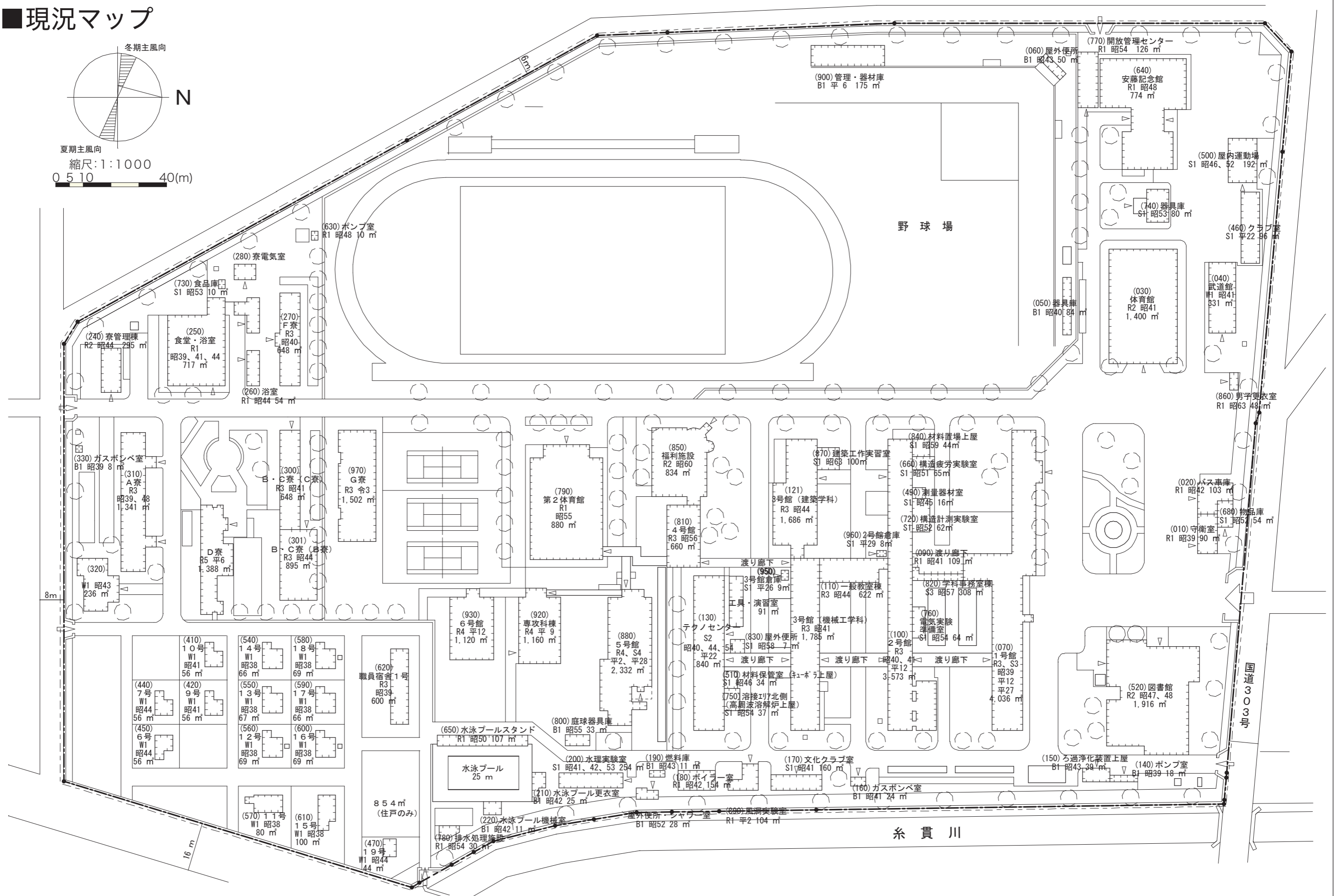
コンセプト及び方針を踏まえて具体的な整備計画案を作成し、計画案実現に向けての年度計画、アクションプランをまとめ、ロードマップを作成する。

- ・整備施設・整備箇所のリスト化
- ・整備計画案（性能、延べ床面積、階数、施設構成ダイアグラム、空間イメージ、など）の作成
- ・実現に向けたロードマップ（年度計画、アクションプラン）の作成

# ■ 現況マップ



縮尺: 1:1000  
0 5 10 40(m)



## ■教職員から挙げられた改善点

### ■分かりやすさ・移動しやすさ

#### <動線の整備>

- ・キャンパス内動線の明確化、不要な段差・勾配の解消、舗装の改善 (C)
- ・1号館から図書館棟までの屋根付き通路が無い (G)
- ・高専の東側が暗いイメージがある。岐阜第一高校前の交差点も壁があって見通しが悪く、歩道も狭い。東側の壁を撤去して、外から高専が見えるようにしてはどうか？交差点周辺の見通しも良くなる。宿舍側から図書館までの東側が外部の方も通れるようにして、文科系の部室も整備して地域の方々と交流できるようにしてはどうか？ (D)

#### <サイン計画>

- ・4号館渡り廊下を南に出た時に左に見える建物が電子制御工学科棟と分かるように壁面にサイン (G)
- ・便所という表記は変更した方が良くと思います。(M)

### ■運動施設の不具合・劣化、改善

#### <プール>

- ・プールの老朽化 (漏水・腐食等) (G)

#### <テニスコート>

- ・テニスコート面数不足 (Sh)
- ・国際寮建設のためにテニス場が潰されたので作ってほしい。(M)

#### <グラウンド>

- ・サッカー (ラグビー) グラウンドの土が深く、足が取られ、練習・試合にならないので改修ほしい。(M)
- ・ラグビー・サッカー・陸上部用としてグラウンドにLED照明をつけてほしい。冬は暗くて練習にならない。(M)

- ・野球場内野 土が不足し小石の表出多数 (Sh)
- ・野球場防球フェンス高さ不足 ファールボールが西側道路や安藤記念館方向に飛び出す (Sh)

#### <部室>

- ・部室を改修し、面積を増やしてあげてほしいです。皆が着替えもできない狭さです。(M)

### ■モノづくり環境の不足、整備

- ・ロボット研究会の部室がエアコンがなく作業環境が悪い。(D)
- ・課外活動としてモノづくりができる部屋などの環境がない。(D)
- ・実験室を増やして欲しい (M)
- ・水理実験室を含めたキャンパス東側の老朽建物の改修 (C)

### ■寮食堂の老朽化

- ・寮食堂調理場機器の刷新 食器返却用ベルトコンベアの劣化が激しいが、古すぎて修理部品もないため (Sh)
- ・学寮食堂厨房の改修 (厨房床のドライシステム化、厨房内のエアコン設置等) (G)

### ■館内設備の不具合・劣化、改善

#### <図書館の設備>

- ・図書館センターのトイレが詰まりやすい。(配管が細いと聞いているが改善してほしい。) (G)
- ・図書館センターにエレベーターがなく、負傷者 (松葉杖) は、2階演習室での授業の際など、困っている。(G)

#### <テクノセンターの設備>

- ・テクノセンタ 上下水配管設備改修 (G)
- ・テクノセンタ 機械加工エリアにおける空調設備導入 (G)

#### <空調設備>

- ・第1体育館 冷房設備の設置 (Sh)
- ・D科棟 1Fのエアコンの効きが悪い。業者の見解では部屋の大きさに対してエアコンの出力が足りていないとのこと。(D)

#### <省電力化>

- ・教室、寮棟、食堂等の照明器具のLED化 (G)

#### <故障中>

- ・1号館2階女子トイレの修理 1箇所故障中のままである (Sh)

### ■更衣室・シャワー・トイレの整備

#### <屋外トイレ>

- ・外にトイレはないので、外部活の練習試合などで外部の方がトイレを利用できない。(D)
- ・屋外便所 (野球場バックネット裏) 修繕 使用できない便器多数 (Sh)

#### <更衣室・シャワー・トイレ>

- ・第二体育館に (男女) 更衣室、女子トイレがない。(A)
- ・伊吹の改修時に男女関係なく使える更衣室 (みんなの更衣室) を提案したが実現しなかった (A)
- ・サッカー部や陸上部など、着替えスペースがない。公衆の面前で着替えるのは倫理的にどうか？ (A)
- ・シャワー室を使いやすい場所に設けてはどうか。(A)
- ・ジェンダーレス更衣室の新設 性別違和を抱えている方にとってはもちろんのこと、更衣室で着替えたい男子学生にとっても必要 (Sh)

### ■スペースの不足←→充実

#### <居場所>

- ・清掃業者の控え室、昼食場所がない。(G)
- ・職員の休憩室が少ない。(車内や物置で昼食を食べている) (G)

#### <倉庫>

- ・北の倉庫 (総務・人事、企画・研究協力 書庫) の容量が少なく、書類で溢れて整理整頓ができていないため、新しい倉庫 (書庫) が必要。(So)

#### <会議室>

- ・小会議室がもう一つあるとよい (G)

### ■構内環境の劣化・整備・活用

#### <植栽・池>

- ・構内樹木が弱っている (G)
- ・丸池の老朽化 (亀裂等) (G)
- ・図書館南玄関前のケヤキの木が図書館建物側に傾きつつあり、結構大きな枯れた枝が落ちてきて危ない。(G)

#### <駐車場>

- ・専攻科棟周辺駐車場の整備 (水はけが悪いので舗装があると良い。あとは、駐車用の白線もあると...) (C)

#### <その他>

- ・段ボール回収所の建屋が朽ち果てそうなので、新設してほしい (M)
- ・正門横の掲示板があまり利用されていない (G)
- ・正門喫煙所は見栄えも悪く設置場所の再検討してほしい (C)

### ■売店・販売機能の充実

- ・自販機の種類 (スナック菓子、グミ、カップ麺) を増やしてほしい (M)
- ・弁当業者が正門前等 (又は売店) で多種類の弁当を販売できるように配慮してほしい。(M)
- ・学生から近くにコンビニが無く不便と聞きます。思い切ってコンビニを学内に誘致してください。(M)
- ・売店を拡充して欲しい (M)

### 課題整理

- ・明るく、分かりやすい、移動しやすいキャンパス作りをサブコンセプトの一つとして設定する。
- ・運動施設・モノづくり施設、構内環境の整備は、「インテリジェントアスリートキャンパス」というコンセプトのもとに再構成を図る。プールの老朽化対策、部室の改修を位置付ける。
- ・運動施設の整備はコンセプトに基づき、多くの人々の利益に供するものを優先して位置付ける。しかし、緊急性を要する整備についてはその限りではない。
- ・テニスコート、水理実験室改修・整備は既に決まっている。
- ・コンセプトに基づいた整備の核の一つとして多様なジェンダーが使用可能な更衣室、シャワー室、トイレを位置付け、第2体育館の改修と関連させて計画する。
- ・館内整備は省電力化を優先して検討する。
- ・近年整備を終えた箇所について、再度整備するのは難しいと考えられるが、施設運営上の工夫によって大きな整備・改修を伴わない環境改善を検討する。
- ・売店機能の充実などについては、既に検討され、出店条件などで実現が難しいことが分かっている。本校側の経済条件の整備が確認されなければ再検討は現実的ではない。

## ■校長・副校長、WG長からの聴取意見

聞き取り対象：教務主事	聞き取り対象：学生主事	聞き取り対象：専攻科長
<p>・教室の整備なども進み、教務関係では現在急を要する整備課題を抱えていないと考えている。</p>	<p>＜施設の老朽化と対応＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動部もそうだが、特に文化系部室の老朽化が気になる。</li> <li>・プールの今後の維持・管理についても検討する必要がある。例えば部活動も地域施設を利用し、本校施設を廃止するという形もあり得るのではないか。</li> </ul>	<p>＜８０名（２クラス）を対象とした教室の必要性＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専攻科も含めて８０名（２クラス分）が授業を受講できる教室が整備されていない。例えば専攻科２年対象の必修授業を１Ｙ・２Ｙが全員受講したいというときに制限される。そのことが理由で現在、履修を２年のみに制限している科目もある。この必修を２年次に落としてしまうと問題が生じるが、１年次も履修できれば２回、機会がある。</li> <li>・例えば、５年次の英語はTOEICの複数２クラスが同時に受けられる教室があれば、異なる学科で同時に授業すること（や教育課程の変更による２学年同時開講）などで円滑に授業が進められ、業務軽減にもつながる。</li> <li>・大人数で授業を受講できる可能性がある部屋としては現在、図書館棟１階のクリエイティブcommons、６号棟４階の大講義室、４号棟２階のモノづくりセミナールームが挙げられるが、前２教室は授業が実施できる設えになっておらず、後者は講義専用の教室ではないため、講義専用室の整備を望む。</li> <li>・整備を行った上で挙げた３室で複数クラス同時の授業が可能だということが学内で了解されれば、時間割編成でも工夫して集約化した授業などの工夫の余地が出てくる。</li> </ul>
<p>聞き取り対象：寮務主事</p> <p>・寮食堂の老朽化への対応が必要。それ以外の点では施設整備の課題はないと考えている。</p>	<p>＜地域（行政・企業）との連携の可能性＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校長先生も今がチャンスだとおっしゃっているが、企業や行政のお金を入れて施設の共同利用を図ることも検討する必要がある。</li> <li>・図書館などは既に規定があり、今でも地域が利用可能。</li> </ul>	<p>＜創造工学実習のためのモノづくりスペース＞</p> <p>現在、創造工学実習でモノづくりを行っているが各研究室に別れて作業しているので作業できるスペースがあると良い。</p>
<p>聞き取り対象：研究主事</p> <p>＜地域（行政・企業）との連携の必要性＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予算措置は終わるがスタートアップ事業は進めていく必要がある。</li> <li>・（起業などと関連して）今後、様々なことを実現していくためには経済的側面も含めて企業や行政と連携していく必要があると考えている。</li> </ul> <p>＜スタートアップなどを進める上での意見集約の難しさ＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リテラシーなどを拡張して学生による主体的なモノづくり活動を進めていければよいが、他の様々な活動もあり、それぞれの活動に関わる教員の立場の違いから、意見が集約しにくくなっている。</li> </ul> <p>＜事業を実体化するまでのプロセス・仕組みの欠如＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・例えば地域連携について、構想を描いても、誰が（地域の）誰と話して、話を動かすのか。実行に移すまでのプロセスを実現する仕組みが今の岐阜高専にはない。</li> </ul> <p>＜ロードマップ作成の提案＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・絵に描いた餅に終わらせないためには、マスタープランで施設整備の目標像を設定するだけでなく、実現に至るまでのロードマップを作成することを提案したい。</li> </ul>	<p>＜職員宿舎（跡地）利用の可能性、第一高校との連携＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員宿舎（跡地）は、駐車場にするとよい。第一高校なども利用可能にすると思ふのではないか。ロータリーを作って、学生の送迎車も安全に入れるようにするとよい。</li> <li>・そのための学校ではないので特に運動に力を入れる必要はないが、知的アスリートという観点からは（スポーツが盛んな）第一高校と連携して互いの施設の共同利用を図るとより充実が図れる。</li> </ul> <p>＜施設整備の方向性について＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい施設を作ることはもうやめた方がよい。新しいものを作るとその維持・管理にまた、経費、労力が必要となる。今ある施設の充実を図るべき。そういう意味では既存施設の更新、再配置という方向は賛成。</li> </ul>	<p>＜情報共有の重要性＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、専攻科長は財務施設委員会等の参加メンバーでないこともあり、専攻科棟に関わる事項であっても、情報が伝わらない。</li> </ul>
<p>聞き取り対象：科学技術リテラシー教育相談室長、 中堅教員による将来ビジョン検討WG長</p>	<p>＜モノづくり環境の充実＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・モノづくり環境の充実を目指した文化系部室の更新は賛成。モノづくり環境の魅力を増幅できるように配置も検討するとよい。</li> <li>・ロボ研の活動場所を確保する必要がある。</li> <li>・施設を先行して作り、あるべき姿に誘導するというやり方もあり得る。</li> </ul>	<p>＜自律的な学生を育てることと業務軽減＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校に入学時から主体的・自律的に振る舞える学生を育てるということを全学的に共有できたらと考えている。現在は特に担任はきめ細かく学生に指示・指導することが求められているが、学生が自身の責任として情報を確認し、対応することができるようになれば、ルーティンの業務は軽減され、その分、研究や学生の能動的な活動の支援などに時間を割り当てることができる。現状のまま、学生のモノづくり活動を促すと業務の負担から全てが破綻していく可能性がある。</li> </ul>
<p>＜リテラシーの今後。持続性を持った活動への展開＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リテラシーへの参加者も増えているが、現在のやり方の限界も感じている。単位取得を目的にした単年度の活動であるため、先輩が後輩に教えるという縦の関係が生まれにくく、年度を超えた持続的活動にならない。</li> </ul> <p>＜リテラシーの今後。様々なモノづくり活動を包括する枠組みの必要性＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・モノづくり教室をイメージした枠組みによって、C科やA科が参加しにくくなっている。</li> </ul>	<p>＜敷地周辺の開かれた雰囲気づくり＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・川沿いに開けた風景を作り出すのは賛成。</li> </ul> <p>＜学校の地域への開放についての懸念＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学校の考え方にもよるが、学校敷地内に地域住民など誰もが入ることができるのは違うと個人的には考えている。</li> </ul>	<p>聞き取り対象：校長</p>
<p>＜学生による積極的なモノづくり活動支援、教員の負担軽減＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一方で、多くの学生が放課後、様々な工学・モノづくりに関わる様々な活動に取り組む状況も生まれており、学校としてそうした活動を積極的に捉えることも重要。例えば、金曜日の午後は授業を行わず、積極的に課外活動を行う時間とするなど。</li> <li>・金曜午後の授業を無くすことによって、教員たちの研究活動や研修活動のゆとりを作り出すこともできる。</li> <li>・学生による様々なモノづくり活動への取り組みを支援する教員に対しても部活動の顧問と同等の役割として学校も認めていくべきだと考えている。</li> </ul>	<p>聞き取り対象：国際交流室長</p> <p>＜短期留学生の増加へのスペースの対応が課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・G寮ができて、短期留学生を収容できるようになったのは、ありがたい。しかし、今後、更に短期留学が増加することが予想され、宿泊スペースが足りなくなる。木造宿舎を短期留学生用に用意する。合宿所を充てるなどの対応が必要になる。</li> </ul> <p>＜モノづくり活動のためのワークスペースの必要性＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・G寮のスペースを宿泊も含めてリテラシーなどの夏休みの活動に充てられるようになると思ふ。ロボ研、エコランの活動場所を検討する必要。</li> </ul>	<p>＜教職員が夢を持てるようなマスタープランづくり＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員が夢を持てるような施設整備の計画作りをしてほしい。</li> <li>・教員会議などで途中経過を説明することで学校全体で共有できるようにしてほしい。</li> </ul> <p>＜ゲストハウスの設置＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木造教職員宿舎をリノベーションして学外、海外から研究者を招聘した際に泊まれる施設を作れないか、検討してほしい。</li> </ul>

## ■校長・副校長、WG長からの聴取意見（続き）

聞き取り対象：主管会議連絡会（校長、教務主事、学生主事、事務部長、・・

2024年9月17日に主管会議連絡会において、施設整備マスタープランの説明を行い、意見を聴取した。

### ■クリエイティブネットワークのバリアフリー化

・クリエイティブネットワークの中に1号館3階の起業家工房と図書館1階クリエイティブ・commons、2階の情報処理センターを組み込み、2階に空中通路を設けてつなぐとクリエイティブネットワークが強化できる。近くにエレベーターがあり、図書館と校舎、クリエイティブネットワークの関係のバリアフリー化もできる。

### ■スポーツトレイルの拡張による多様な利用者の共存

現在あまり使われていない運動場西側のエリアにもスポーツトレイルのコースを拡げることによって、走る人、歩く人を共存しやすくなる。

### ■コンセプトにおける高専らしさの強調

現在のテーマ（インテリジェントアスリート）を活かしつつ、より高専らしさを強調し、イメージを明確にした方が行政や地域企業など対外的に協力を得ようとする時に説明しやすい。例えばインテリジェントテクノアスリートなどどうか。

### ■地域との連携に向けての仕組み作りの必要性

・施設整備マスタープランの実現に向けて、地域連携を進めるためには地域からの資金や技術協力の受け皿 Private- を整理しておく必要がある。例えば、若鮎会（岐阜高専同窓会）記念事業、基金の設立、P.F.I. (Private-Finance-Initiative) やクラウドファンディングの導入などが考えられる。

・地元や社会で活躍する卒業生から母校のために何かしたいという言葉もよく聞く。彼らの資金、技術を受け入れる仕組みを作れたら、卒業生の力を本校の発展に生かすことができる。

・上記の枠組みは執行部（主管会議構成メンバー）で検討する必要がある。

## ■施設整備マスタープランWG記録

### <第一回 WG 会議記録>

051030

#### ■WGの目標の確認

以下の作業目標を確認した。

・現在のキャンパスにおけるハード・ソフトにわたる課題のできる限りの解消を図る。

・学生・教職員のより快適なキャンパスライフの実現を目指す。  
・岐阜高専の未来に向けての積極的取り組みを支援・加速するための環境整備を目指す。

#### ■作業の進め方の確認

・機構による施設整備5ヵ年計画（令和3～7年度）を踏まえて進めていくことを確認した。

・ワークフローをもとに進め方について説明をした。

・法規、施設計画の専門家として建築学科櫻木先生のオブザーバー参加が認められた。ただし、マスタープラン案の決定には参加しないこととする。

#### ■ディスカッション

##### a) 計画の制限と緩和条件

・基本的に床面積の増床はできないが、地域連携に向けた施設は一定の範囲内で増床できる。

##### b) 計画の方向性

・これまで年度毎にバラバラに作られてきた施設をテーマを設定してエリアや通りを軸に再編した方が良い。(CreativeStreet AthleteStreet など)

・学生の自発的でクリエイティブなモノづくり活動を支援する場を作りたい。

・テニスコート単体でマスタープランに載せても予算は通りにくいので、上位計画を作る必要がある。

##### c) 計画の対象敷地・施設

・木造官舎の撤去、跡地利用は一つの軸になる。

・ボイラー室の活用を考える必要がある。

・プールは個人的には廃止してもよいのではないかと考えている。(維持費の問題)

##### d) 検討課題

・テニスコート：テニスコートは緊急性が高いのだが、もしテニスコート一面建設がマスタープラン以前に認められたら、マスタープランに載せたコート数は実現しないことになるのか。

・プール及び関連施設を廃止する場合、床面積は転用できるのか？

・セキュリティ：人気（ひとけ）がない空間を作ると犯罪的行為が起こる可能性が高まる。

##### e) 施設整備アイデア

・多目的コート：

　以前のマスタープランにあった3on3ができる多目的コートなどができたら、授業にも積極的に活用したい。

・ボイラー室：

　モノづくり関連施設への用途変更も考えられる。(ロボ研の活動場所にできたらと考えていた。)

・セキュリティへの対応：

　やむを得ない場合を除いて監視装置などによる管理は避けたい。事務系居室や教員室を配置して、自然監視（人の気配がする。見守られている感じがする。）状態を作る。

・若手共同研究室：学科を超えて、若手教員の共同研究室がよいのではないかと。(建築学科改修時の伊吹2階の仮の共同研究室は、すぐ相談できる、必要な情報をすぐ確認できる。毎日のコーヒータムミーティングなどよかった。)

#### ■今後の進め方

各種会議、学科会議などを通して、WGメンバーによる課題の引き上げを行うことになった。

・使える敷地が明確になっていた方が例えばテニスコートの面数など、具体的な希望を言いやすい。

→ 様々な情報をもとに方針・内容を決定する。挙がってきた要望や問題点をそのままマスタープランに反映するのではなく、WGの議論の中で希望を踏まえつつ、学校の方向性を示す上位計画に関連づけた上で整備規模・整備内容を決定する。そのため、現時点では明確に敷地を示すことはできない。

### <第二回 WG 会議記録>

060325

#### ■工程表の確認

事務から今後の施設整備マスタープランの工程について説明があり、了解した。

#### ■情報共有

副校長、各WG長、各学科、事務の各セクションから収集した情報の分析について、説明を行い了承された。

#### ■施設整備マスタープランの素案の共有

集約、分析した情報をもとに作成した施設整備マスタープランのコンセプト<インテリジェントアスリートキャンパス>、及びコンセプトを実現するためのモノづくりアスリートを支援するための活動拠点の整備、クリエイティブな運動空間への進化、効率的なキャンパス運営の実現という方向性、更に設定した方向性に基づいた計画案について説明され、概ね了承され、ディスカッションでは方向性に基づいた幾つかの提案があった。

#### ■ディスカッション

##### a) 既存施設の再構成の必要性

既存の老朽化した施設をどう整理するか考える必要がある。年度毎に設置された施設が学内に分散しており、老朽化、陳腐化しているものも多い。外トイレも古くなっており、誰も使っていない。また、合宿所、第二体育館や卓球場(屋内運動場)などもかなり古く、陳腐化もしている。

→マスタープランの素案で小規模施設の統合、改修による機能の更新を提案していることを説明。

##### b) スクールバスの位置付け

・スクールバスもかなり古いがどうかできないか。

→施設整備マスタープランの対象ではないが、マスタープランで謳う地域連携を進めることで地域の支援を受けてスクールバスを更新するという道もあるかもしれない。

##### c) 提案の実現性の確保

実効性のあるものにしていくには、ロードマップが大事。年度毎の整備のスケジュールを具体的に計画しておく必要がある。

##### d) スポーツトレイルについての提案

スポーツトレイルに関連して以前から、トレイルとして設定した道について照明があった方が良いという声もあったので、スポーツトレイルの整備と関連させて設置してはどうか。

##### e) 構内交通計画の提案

高専祭などの大きなイベント時には、多くの車が入ってきて、混乱しやすい状況がある。駐車場の位置やイベント時の誘導方法を地域連携、開放プログラムと連動した駐車場の拡張と合わせて駐車場の位置や誘導方法について計画したい。

→マスタープラン案がある程度具体化した時点で検討を行う。

##### f) 専攻科改修をマスタープランに載せることの提案

専攻科棟は、色々使い方が変遷する中で、本来の専攻科生の活動の場としての側面が薄れている。そこで4、5年後に改修の対象となることを見通して、今回の施設整備マスタープランのマスタープランの他の計画と連動させつつ、専攻科棟の在り方を明確にしておいた方が良い。必要であれば施設を増築しても良いのではないかと。

→現在福利施設に位置する産官学連携室を専攻科棟低層部に移設することでクリエイティブネットワークとの関係付けを強める。

これに対し専攻科棟の改修時にこれまで調整されてきた各学科のスペースの割り振りが変わることに抵抗感があるという意見があった。

→産官学連携室の専攻科への移設に伴って減少する教員室を専攻科棟東に以前提案があった若手教員の共同研究室としての新設することで教員のコミュニケーション機会を高め、また学科を問わない教員のクリエイティブネットワークへの関わりを促進できる。

## ＜第三回 WG 会議記録＞

061004

### ■施設整備マスタープラン案についての説明

主管会議メンバーとの打ち合わせなどのヒアリングを踏まえて、修正、追加した計画について説明した。

また、既存施設の転用、再活用を中心に複数年にわたり段階的にインテリジェントアスリートキャンパス化を進め、その過程で地域との連携を運営、利用レベルで深めるという今回の整備計画の特性を踏まえ、整備計画を実施レベルに進めるために、以下の仕組みをマスタープランに明記したことを説明した。

a) 個々の整備にあたり、マスタープランにおける位置付けを確認する仕組み。

b) 地域（企業、行政、市民）との協働を進めるための受け皿を仕組み、体制として学内に作る。

c) 実際にそれぞれの整備に関連したプロジェクトを地域との間で立案し、プロジェクトを実行する体制。

### ■今後の進め方についての説明

今回の WG の議論を踏まえて施設整備マスタープランを修正したのち、WG 構成メンバーが学内の各セクションにマスタープランの内容について周知を行い、原案についての議論を収集し、収集した意見を反映してマスタープランをブラッシュアップするとともに教職員の理解を深める段階に計画を進めることを説明した。

その後、マスタープラン案について議論を行った。

### ■ディスカッション

a) コンセプトを明快に説明する必要性

これからマスタープラン案を学内に周知し、議論を進めるにあたって、マスタープランの中で、計画の軸となる＜スポーツトレイル＞＜クリエイティブネットワーク＞という考え方についてももう少し分かりやすい説明をしておく必要がある。

b) 合宿所のマスタープラン内での位置付け

スポーツトレイルに関連して、合宿所の扱いについて触れておく必要があるのでは？

ただし、マスタープランに位置付けるには宿直業務として認められないなどの課題があり、学内における合宿に関する議論が整理されるのを待つ必要がある。

c) 駐車場計画について

駐車場に学生送迎の車を入れさせることは駐車場計画的に難しい。また、周辺道路との関係で合理的に計画をする必要がある。※川端先生に駐車場計画のラフについてご検討いただくことになった。

## ＜第四回 WG 会議記録＞

061217

### ■施設整備マスタープラン案についての説明

学内に周知し、議論をすることを踏まえて、前回 WG の修正点を反映した点、追加した整備イメージのポンチ絵を含めてマスタープラン案の説明を WG 長が行った。

### ■今後の進め方についての説明

この修正案について微修正を行ったのちに1月31日を目処に学内各セクション（事務、一般科、各専門学科）に WG 委員が説明し、マスタープラン案の周知及び意見収集を行うことを WG 長が会議にて各委員に伝えた。

### ■多目的コートの位置について

多目的コートの位置について、学内からもう少し東でも良いのではないかという指摘があったが、国道 157 号線（本巣縦貫道）に隣接させることは危険性が高いと判断したという点を説明した。

### ■施設係によるマスタープラン案の確認

マスタープラン案の施設整備・改修上の重大な問題点について、前回会議以降施設係からの指摘がなかったことが確認された。

### ■ディスカッション

・質問：P13 に示されている産官学連携室機能の専攻科棟への移設は設備のみなのか、部屋ごと移すのか？

↓

設備を移すことを想定しているが具体的な事業計画策定時に変更してもよい。

・意見：プール廃止後の跡地活用について、スポーツテラスだけでなく、クリエイティブコア2、モノづくりテラスも含んでいることを示した方がよい。

↓

施設の再構成計画（P13）に明示した。

・意見：クリエイティブネットワークを示す図内で電子制御工学科を通り抜ける線は削除してオープンラボで止めてほしい。

↓

各図から通り抜ける線は削除する。

・意見：多目的コートで3on3、テニスに加えて、フットサル、ハンドボールができるとうい。

↓

施設整備計画配置図（P14）の多目的コートエリアにテニス、3on3、フットサル、ハンドボールについてコートサイズを明示した。

・質問：企業から受けた寄付金で施設を整備することは可能か。

## ＜070625 財務・施設委員会後の意見聴取・対応記録＞

070625～0724

### ■各学科からの意見・及び対応

- ・ キャンパス全体のバリアフリー化について意見があり、マスタープランに反映した。
- ・ プールの廃止について意見があり、「プール廃止に伴う教育内容の見直し」をマスタープランに反映した。

## ■ 区分別面積と必要面積の充足状況

面積区分No	面積区分名称	現有面積等 (㎡)				保有面積等 (㎡)			必要面積等 (㎡)			要整備面積 (㎡) I-F	
		建物面積 (A)	現有面積 (B)	所有面積 (C)	借用面積 (D)	保有面積 (E)	補助整備保有面積 (F)	自己整備保有面積 (G)	基準整備面積 (H)	加算整備面積 (I)	必要面積 (I)		
31	高専教育・研究施設	17389	17389	17367	22	17389	17196	193	16700	1173	17873	677	充実を図る必要がある。
32	高専図書館	1548	1548	1548	0	1548	1548	0	1600	0	1600	52	
33	高専体育施設	3987	3987	3987	0	3987	2853	1134	2100	575	2675	-178	自己整備保有面積のうち774m2は安藤記念館
34	高専支援施設	1537	1537	1537	0	1537	1311	226	1546	0	1546	235	部室を含む。
35	高専宿泊施設 (職員宿舎除く)	7498	7498	7498	0	7498	7498	0	7993	0	7993	495	
35	高専宿泊施設 (職員宿舎のみ)	1454	1454	1454	0	1454	1454	0	0	1454	1454	0	
36	高専管理施設	2339	2339	2339	0	2339	2339	0	270	1891	2161	-178	ボイラー室は加算面積に含まれる。
37	高専設備室等	541	541	541	0	541	432	109	0	432	432	0	
計		36293	36293	36271	22	36293	34631	1662	30209	5525	35734	1103	
計 (職員宿舎を含まない)		34839	34839	34817	22	34839	33177	1662	30209	4071	34280	1103	

### ■ 面積の状況

- ・現在、要整備面積は 1103 ㎡。
- ・2024 年度施設実態報告において施設調査単位が高専宿泊施設から高専宿泊施設 (混住型) に変更されたため変更されたことによる基準整備面積の増加により、要整備面積の超過が解消された。
- ・体育施設、高専管理施設は 178 ㎡超過。体育施設は 575 ㎡加算面積を有している。
- ・高専教育・研究施設は 677 ㎡充足していない。
- ・高専支援施設も 235 ㎡未充足。
- ・例えば寮事務棟を取り壊しても 12 名分 (18 ㎡×12 名:216 ㎡) 基準面積が減少するので取り壊しは面積調整に寄与しない。大型改修の際に面積を調整するしかない。
- ・基準整備面積の加算整備面積への転換はできない。
- ・加算整備面積内の区分変更は可能である。
- ・加算整備面積は 100 ㎡以上が対象。
- ・100 ㎡以上になるならば、2 部屋以上を 1 部屋にすることは可能。
- ・既存施設を一旦廃止にし、その面積を新たな整備に組み込むことで施設の効率的再配置を図ることが考えられる。

## ■施設毎の面積と区分の詳細

棟番号	棟名称	建築年	構造	区分名称	基準整備面積	老朽化陳腐化耐震性	棟番号	棟名称	建築年	構造	区分名称	加算整備面積	老朽化陳腐化耐震性
3	第一体育館	1966	RS	高専体育施設	1400		1	車庫・守衛所	1964	R	高専管理施設	90	
4	武道館	1966, 68	W	高専体育施設	331		2	バス車庫	1967	R	高専管理施設	103	
6	屋外便所・体育器具庫	1968	B	高専体育施設	60	耐	5	体育器具庫	1965	B	高専体育施設	33	耐
7, 8, 9	1号館	1964, 2001, 15	R・S	高専教育・研究施設	2622		7	1号館	1964	R	高専管理施設	1099	
7	1号館	1964	R	高専管理施設	315		12	2号館	1965, 66	R	高専管理施設	95	
11	渡り廊下	1966	R	高専設備室等	109		15	3号館（機械工学科）	1966	R	高専管理施設	67	
12, 13	2号館	1965, 66, 2001	R	高専教育・研究施設	3478		16	3号館（建築学科）	1969	R	高専管理施設	72	
14	一般教室棟	1969	R	高専教育・研究施設	622		17,18	テクノセンター	1969, 2010	S	高専教育・研究施設	239	陳
15	3号館（機械工学科）	1966	R	高専教育・研究施設	1718		21	ポンプ室	1964	R	高専設備室等	18	
16	3号館（建築学科）	1969	R	高専教育・研究施設	1614		22	ろ過浄化装置上屋	1968	B	高専設備室等	39	
17, 19, 20	テクノセンター	1965, 71, 79	S	高専教育・研究施設	672		23	ガスボンベ室	1966	B	高専管理施設	24	
31	食堂・浴室	1964, 66, 69	R・B	高専宿泊施設	717	老・陳	25	ボイラー室	1967	R	高専設備室等	154	老・陳
32	浴室	1969	R	高専宿泊施設	54		26	燃料庫	1968	B	高専管理施設	11	
33	F寮	1965	R	高専宿泊施設	648		27	水理実験室	1966, 67, 78	S	高専教育・研究施設	254	老・耐
35	B・C寮（C寮）	1966	R	高専宿泊施設	648		28	水泳プール更衣室	1967	B	高専体育施設	25	老・耐
36	B・C寮（B寮）	1969	R	高専宿泊施設	895		29	水泳プール機械室	1967	B	高専体育施設	11	老・耐
37	A寮	1964, 73	R・S	高専宿泊施設	1341		34	寮電気室	1966	R	高専設備室等	56	
38	合宿所	1967, 71	W	高専支援施設	242	老・耐	39	寮ガスボンベ室	1964	S	高専管理施設	8	
44	クラブ室	2010	S	高専支援施設	96		40-57	職員宿舎	1966	W	高専宿泊施設	854	老・耐
46	測量器材室	1970	S	高専教育・研究施設	16		48	図書館	1972, 73	R	高専設備室等	68	
47	屋内運動場	1971, 77	S	高専支援施設	192	老・陳・耐	48	図書館	1973	R	高専教育・研究施設	300	
48	図書館	1972	R	高専図書館	1548		58	職員宿舎1号	1964	R	高専宿泊施設	600	
62	構造物疲労実験室	1976	S	高専教育・研究施設	65		59	寮ポンプ室	1973	R	高専設備室等	10	
64	物品庫	1977	S	高専管理施設	54		61	水泳プールスタンド	1975	R	高専体育施設	107	老・耐
66	構造計測準備室	1977	S	高専教育・研究施設	62		65	屋外便所・シャワー室	1977	B	高専体育施設	28	老・耐
69	食品庫	1978	S	高専宿泊施設	10		67	器具庫	1978	S	高専体育施設	80	
68	電気実験準備室	1979	S	高専教育・研究施設	64		70	施設開放管理センター	1979	R	高専体育施設	126	
72	第二体育館	1980	R	高専体育施設	880	陳	71	排水処理施設	1979	R	高専管理施設	30	
74	4号館	1981	R	高専教育・研究施設	351		73	庭球器具庫	1980	B	高専体育施設	33	耐
74	4号館	1981	R	高専支援施設	137		74	4号館	1981	R	高専教育・研究施設	172	
75	学科事務室棟	1982	S	高専教育・研究施設	154		75	学科事務室棟	1982	S	高専管理施設	95	
77	材料置場上屋	1984	S	高専教育・研究施設			76	屋外便所	1983	S	高専管理施設	7	
78	福利施設	1985	R	高専教育・研究施設	14		78	福利施設	1985	R	高専教育・研究施設	104	
78	福利施設	1985	R	高専支援施設	716		79	男子更衣室	1988	R	高専体育施設	48	
80	建築工作演習室	1988	S	高専教育・研究施設	100		81	5号館	1990	R	高専管理施設	15	
81, 82	5号館	1990, 2016	R・S	高専教育・研究施設	2252		81	5号館	1990	R	高専設備室等	45	
81	5号館	1990	R	高専管理施設	20		83	風洞実験室	1990	S	高専教育・研究施設	104	
85	D寮	1994	R	高専宿泊施設	1388		84	管理・機材庫	1994	B	高専管理施設	175	
86	専攻科棟	1997	R	高専教育・研究施設	1160		87	6号館	2000	R	高専設備室等	42	
87	6号館	2000	R	高専教育・研究施設	1078								
88	工具・演習室	2011	S	高専教育・研究施設	91								
89, 90	3号館倉庫	2014, 17	S	高専教育・研究施設	17		棟番	棟名称	建築年	構造	区分名称	自己整備	借用
91	G寮	2021	R	高専宿泊施設	1502		60	安藤記念館	1973	R	高専体育施設	774	
							1	ドリーム・コア	2000	S	高専教育・研究施設		22

# ■インテリジェントテクノアスリート・キャンパスへの進化

## <主旨>

インテリジェントテクノアスリートとはモノづくり、身体的活動のいかに関わらず、能動的かつ知的にモノゴトに取り組む学生を指す。岐阜高专では共同教育やスタートアップ事業も始まり、また、これまでの運動部やロボット研究会を中心とした部活動のみでなく、リテラシー活動の参加者も近年大幅に増加し、また自らコンテストに積極的に参加する学生も増加している。これらの学生たちは運動とモノづくり活動の双方に取り組んだり、機械工学科と建築学科の学生が協働してコンテストに取り組むなど、領域を超えてあるいはまたいで活動していることも多い。本校ではそうした学生たちの積極的取り組みを促し、支援することはより多様化、複雑化する新しい時代を自ら切り拓くエンジニアを育てていくことだと考えている。

そこで「岐阜高专キャンパスマスタープラン 2024」では現在のキャンパスをインテリジェントアスリートを育てるためのキャンパス環境へと進化させることを目標に掲げるものとする。

ここでテーマに進化という言葉を選んだ背景には、新しい施設を作るのではなく現在の環境を発展させるという意図を含んでいる。現在、予算の縮小やそれに伴う常勤教員・事務スタッフの減少によって本校の運営はさまざまな面で逼迫した状況にある。また、長年にわたって時代に対応した施設を増設したことによってさまざまな機能がキャンパス内に分散していることも効率的な運営の妨げになっている。ここで新たな施設を増設することはさらに運営が齟齬を受けられることにもなりかねない。そこで本キャンパスマスタープランにおいては新たな機能を増やすのではなく、老朽化し、分散化した機能をインテリジェントアスリートキャンパスという目標のもとに再構成することを中心に計画し、既存環境の充実を図ることで本校を新しい多様性の時代に相応しいエンジニアの揺籃として発展させたいと考える。

## <インテリジェントアスリートキャンパス実現に向けた方針>

### ・モノづくりアスリートを支援するための活動拠点の整備

老朽化した文化部部室や用途変更が必要な施設を再構成・再配置して、主として放課後に行われる学生主体のさまざまなモノづくり活動の拠点となる充実した設備を備えた施設を整備する。

### ・クリエイティブな運動空間への進化

運動部部室、体育館などの更新、外構・構内道路などを含めて、総合的に計画を行い、伸び伸びと体を動かすことができるキャンパスへと整備を進める。

### ・効率的なキャンパス運営の実現

老朽化した施設の廃止の検討や既存施設の設備を見直しによって省エネルギー化を図ることによって運営コストの低減を図る

### ・地域に開かれたキャンパス空間へ

地域との関係強化

- ・地域への研究・教育を通じた貢献
- ・施設の地域への開放の推進（既に図書館や運動施設は制度的には開放）
- ・地域からのサポート

## <整備計画>

### ■2つのネットワークの設定とアクティビティの可視化

構内に放課後の学生主体の活動、地域企業との連携の舞台となる各施設を結びつける**クリエイティブ・ネットワーク (C.N.)**と地域にも開放された体を動かすことを楽しむための**スポーツレイル(S.T.)**という2つのネットワークを設定する。(図) このネットワークに関わる施設は学生たちのアクティビティが表出するように透明性を持った大きな開口部を設ける、屋外テラスと一体的につなげるなど、それぞれの施設が属するネットワークに対して開放的に計画を行う。また、経路を示すサイン計画、ベンチやテラスの設置

などを行う。これらの方法によってネットワークが有機的に機能し、アクティビティが可視化される。

### ■クリエイティブネットワークを構成する施設の整備内容

#### 1) オープンラボ

電子制御工学科棟の改修にあたり、1階を学年を超えて電子制御工学科のモノづくりを介した交流を促し、他学科にも開かれたオープンラボとして整備を行う。

#### 2) クリエイティブ・コア1

機能が陳腐化したボイラー室をモノづくりの拠点スペースの一つとして転用する。ロボット研究部、エコラン部など複数のクラブの共用を想定して高い階高を活かしたモノづくり拠点の一つとする。

#### 3) クリエイティブ・コア2

老朽化している文化部部室、廃止する室内運動場のモノづくり工房への面積の転用、老朽化した屋外トイレ・シャワー室を併せて3つの施設を連動させてクリエイティブ・コア2とする。複数クラブの部室の共用、モノづくりリテラシーの活動などにより、分野を超えて連携したモノづくりの場として計画を行う。

#### 4) モノづくりテラス

クリエイティブコア2と関係づけ、かつスポーツテラスと隣接する場所に、室外に広がるモノづくりの場としてのテラスを計画することでインテリジェントアスリートのイメージが表出するエリアとする。

#### 5) 水理実験室

大型水路などを有し、環境都市工学科が所有する老朽化した水理実験室について、内部の実験施設の様子がクリエイティブ・ネットワークの一部として可視化される空間として建屋を改修する。

#### 6) 専攻科棟

##### ・地域連携室の専攻科棟への移設

モノづくりに関わる先端設備を備える地域連携室は現在、福利施設2階に設置されているが、設置の背景には適切な位

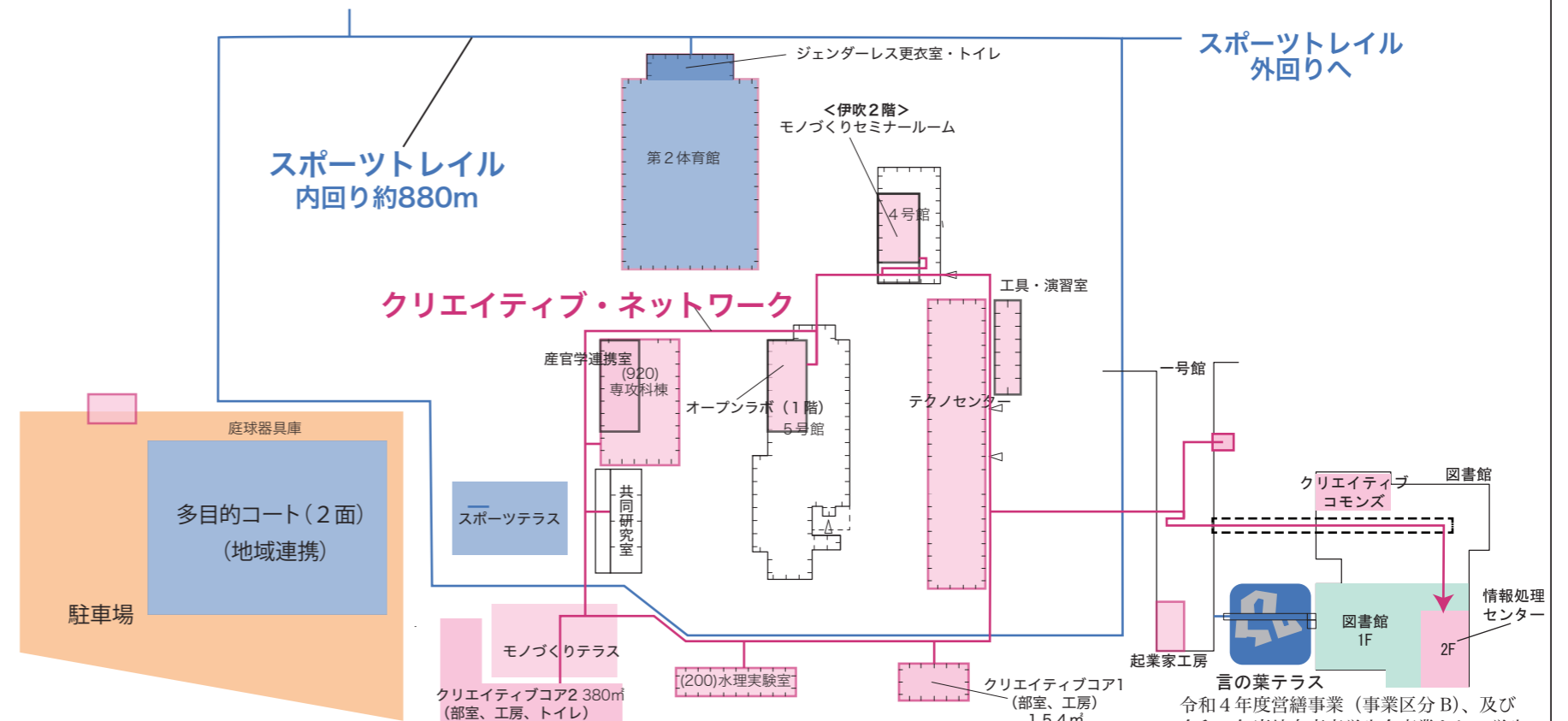


図 C.N. 及び S.T. の構成ダイアグラム

スポーツレイル  
外回りへ

図書館  
クリエイティブ  
コモンズ  
情報処理  
センター  
言葉の葉テラス  
令和4年度営繕事業（事業区分B）、及び  
令和5年度岐阜高专学生会事業として学生  
の主体的な活動により整備

置に室がなかったことがあり、クリエイティブネットワーク構築に伴い、専攻科棟に移築することでクリエイティブネットワークにおけるモノづくりの高度化を図る。

#### ・共同研究室

専攻科棟への地域連携室の移設に伴い、不足する研究室をクリエイティブネットワークと関係付けできる位置に共同研究室として増築する。共同研究室は学科を超えた若手教員の居室とし、教員相互、あるいはモノづくりに取り組む学生たちとの情報の交換、コミュニケーションを促す場を計画する。

### 7) テクノセンター

既存施設であるテクノセンター及び工具・演習室をクリエイティブネットワークの中に位置付ける。クリエイティブネットワークを有効に機能させるために施設の一部を改修し、現在不足している NC 加工機などの木工系の設備を導入し、モノづくり環境の充実を図る。

### 8) クリエイティブネットワークを機能させるための整備

#### ・2クラス対応教室の整備

共通の授業を2クラス同時に受講できることによって教員の担当する授業時間を一定程度減らすことで教員の研究や学生主体のモノづくり活動の支援に振り分ける時間を作り出すことが可能になる。そこで図書館棟1階のクリエイティブcommons、6号棟4階の大講義室、4号棟2階のモノづくりセミナールームを2クラス同時授業が可能な教室として整備する。ただし、大幅な改修は行わず、設備や什器の充実を図ることでこれを実現する。

### 9) ゲストハウスの設置

本校に来校し、短期、中期にわたって滞在する外部研究者の宿泊用宿舎（ゲストハウス）を設置し、クリエイティブネットワークと結びつけることで研究者間の学術面での交流のみではなく、学生たちのモノづくり活動に刺激を与える環境を作り出す。設置するゲストハウスは原則として既存施設の改修、転用によるものとする。ゲストハウス設置に向けては学外、海外との研究活動や教育に関する交流に関わるプログラムを積極的に推進することが必要となる。

具体的な既設対象としては以下の2施設が考えられる。

#### ・木造・RC造職員宿舎の活用

木造職員宿舎は本校が都市計画区域に含まれたことによって、現在既存不適格建築物（建設当初は建築基準法を満たしていたが、現在の法律の規定は満たしていない建物）となっている。この宿舎の敷地は一般住宅用地であり、ゲストハウスは敷地を学校用地に変更が必要となる可能性があり、さらに用地指定の変更には既存宿舎を現行基準法に適合させる改修を施す必要が生じる。

#### ・学生寮管理棟の活用

学生寮管理棟の2階居室の活用は用地の変更を伴わなくてもよいという点では容易だと考えられる。ただし、近い将来、寮改修などによって寮学生を収容可能な居室の状況の変化が予測される場合、学生用宿泊施設として残しておく必要があるため、寮改修以降に整備することになる。

ゲストハウスについては上記の2施設を対象として、実現の方策について検討する。

### ■スポーツレイルに接続する施設の整備内容

#### 1) 多目的コート の設置

現教職員宿舎木造棟の13戸を廃止し、その一部に多目的コート2面を設ける。この多目的コートは地域にも開放されるものとする。ただし、ゲストハウスとしての転用が可能な場合は廃止戸数を変更する。

#### 2) 第二体育館の改修（更衣室・トイレの整備）

現在、トイレ、更衣室などがない第二体育館の機能を補完することを主な目的として改修を行う。女子学生の増加、社会の多様化を踏まえてユニバーサルデザイン化を図りつつ、女性用トイレと更衣室、及びオールジェンダー用トイレと更衣室を整備する。

#### 3) スポーツテラスの整備

図に示す位置にスポーツレイルに接続し、かつクリエイティブコア2、モノづくりテラスと近接する位置にストレッチングや休憩の場となるスポーツテラスを設けることで、学生たちのアクティブな取り組みが表出する場を作り出す。

### ■2つのネットワークを補完する整備

#### 1) サイン計画、ベンチ、照明などの設置

学内に点在し、放課後や休日の学生の主体的な活動の場であり、地域に開かれた活動の場となるクリエイティブネット

ワーク、スポーツレイルを構成する施設を結びつけ、ネットワークを明示するためにサイン計画、舗道整備、照明設備・ベンチの設置などを行う。

#### 2) 駐車場

クリエイティブネットワークの整備のための用地となる5号館、6号館、専攻科棟に隣接する現駐車場エリアの代替として、また地域住民や地域企業がスポーツレイルやクリエイティブネットワークにアクセスすることを容易にするために廃止した宿舎の跡地に多目的コートと併せて、駐車場を設置する。

#### 3) 老朽化した川沿いのフェンスの一部撤去による修景

糸貫川沿いの歩道に面してフェンスが設置されているが、一部は老朽化している。歩道と岐阜高専敷地の間には側溝や高低差があり、フェンスがなくても容易には行き来できない。このフェンスを撤去することによって糸貫川沿いの歩道に向けてより良好な景観が形成される。

#### 4) 合宿所の位置付け

2つの合宿所（第一陵雲荘、第二陵雲荘）は長期休暇中のモノづくり系、運動にわたる学生の活動を支える重要な施設であり、インテリジェントアスリートキャンパスの中で位置付けることは重要であるが、現在、合宿所のあり方については学内で議論が行われており、現施設整備マスタープランにおいては位置付けを行わず、議論の推移を見守ることとした。

### ■キャンパス全体のバリアフリー化について

岐阜高専に通う学生や勤務する教職員の背景の多様化していることも踏まえ、キャンパスマスタープランに関わらず、すべての施設整備はインクルーシブデザイン（多様な属性を持った使用者に配慮してあらゆる人たちが使いやすいデザイン）の観点を導入し、学生・教職員が使いやすい空間づくりを行う。

また、学内各施設の整備時にバリアフリー化を進める。このことによって構内全体に張り巡らされるクリエイティブネットワーク、スポーツレイルはあらゆる人がアクセスできるようになる。

### ■陳腐化・老朽化対策

#### ・寮食堂改修

現在、寮食堂は設備の老朽化・陳腐化しており、円滑な寮食堂の運営が困難になっている。そのため、寮食堂を早期に改修、設備の更新を図る必要がある。

### <地域連携>

今後、施設整備を進める上でも地域と多様な形で連携を進めていくことは重要である。施設整備に関する多様な地域との連携は大別すると次の2点に集約される。1点目は岐阜高専の有する専門的な技術や学園環境を地域の産業や教育に提供し、豊かな地域社会作りにいかに寄与しうるかであり、2点目はいかに地域の支援を得て、効率的な施設運営を図るかという点である。施設整備マスタープランにおいてもこの2点を地域連携の重要なポイントと位置付ける。

### ■地域貢献

#### 1) クリエイティブネットワークを活用した地域貢献プログラム

学生たちの活動の場であるクリエイティブネットワークを地域に開放する。具体的にはオープンラボやクリエイティブコアなどを活用した公開講座、リテラシー活動などによる教育プログラム及び、テクノセンター、地域連携室などを舞台とする地域企業とのスタートアッププログラムや共同のモノづくり活動や技術開発などを積極的に展開する。

#### 2) スポーツレイルの地域への開放

現在、体育館は地域開放施設であり、また、グラウンドを利用して陸上部による教室も開かれている。これらに加えて新たに設ける多目的コートも地域開放施設とする。また、約880mのスポーツレイル自体も地域の人々が散歩やジョギングできる安全な環境として活用できるようにし、第2体育館に設けるジェンダーレス更衣室、トイレも使用可能とする。

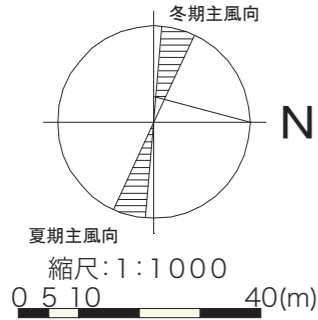
#### 3) 地域連携を踏まえた駐車場の計画

木造教職員宿舎の廃止後の跡地に設ける駐車場に関して、駐車場への進入動線や開放時の駐車台数などを考慮して計画することで地域住民や地域企業の利用の円滑を図る。

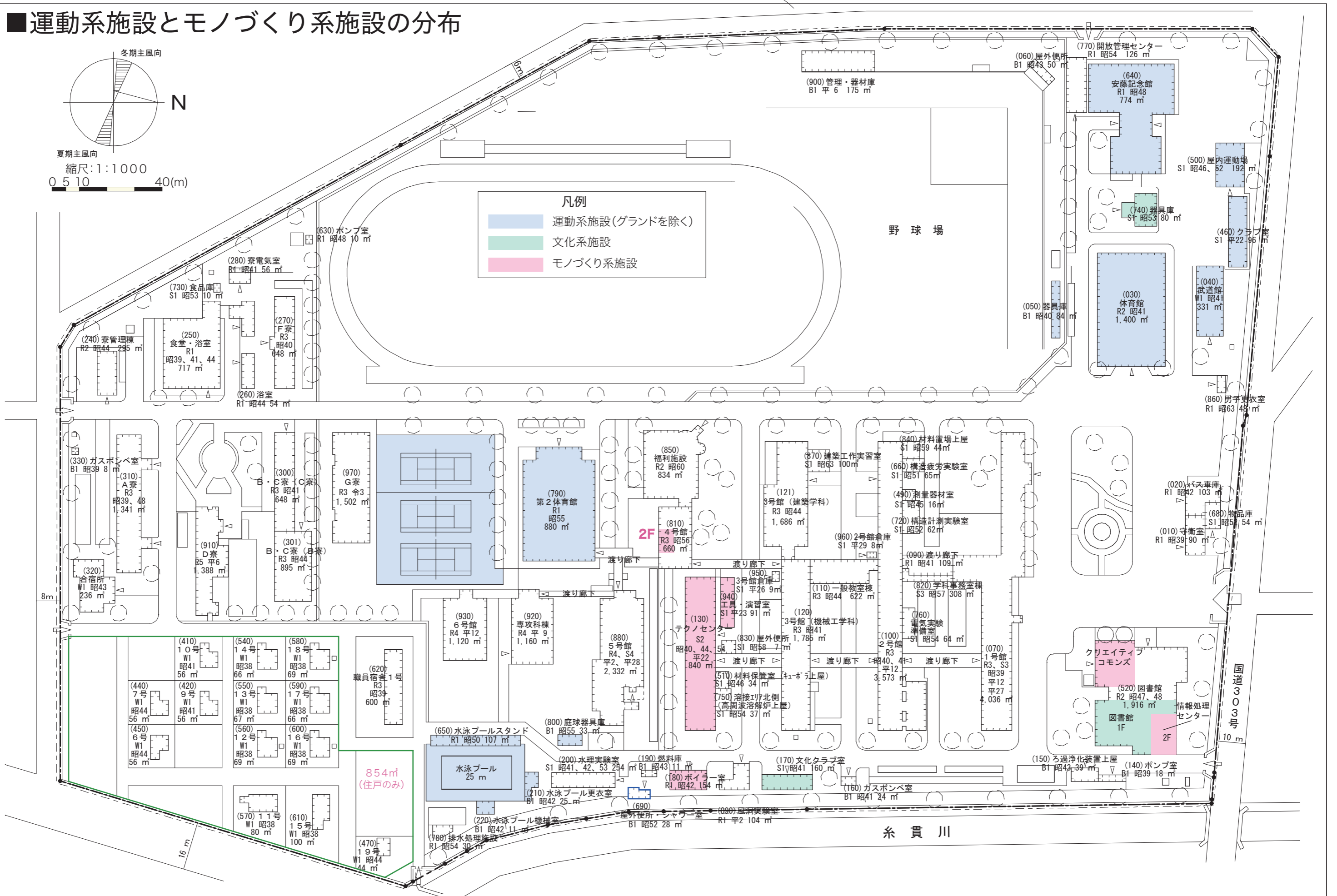
### ■地域との協働

クリエイティブネットワーク、スポーツレイルの整備・運営に関して地域（企業、行政、市民）と活用プログラムに関して協議を行い、また、経済的な支援を受け入れるための枠組みを構築した上で具体的に協働を進める。

# 運動系施設とモノづくり系施設の分布



- 凡例
- 運動系施設(グラウンドを除く)
  - 文化系施設
  - モノづくり系施設



## ■施設の再構成計画

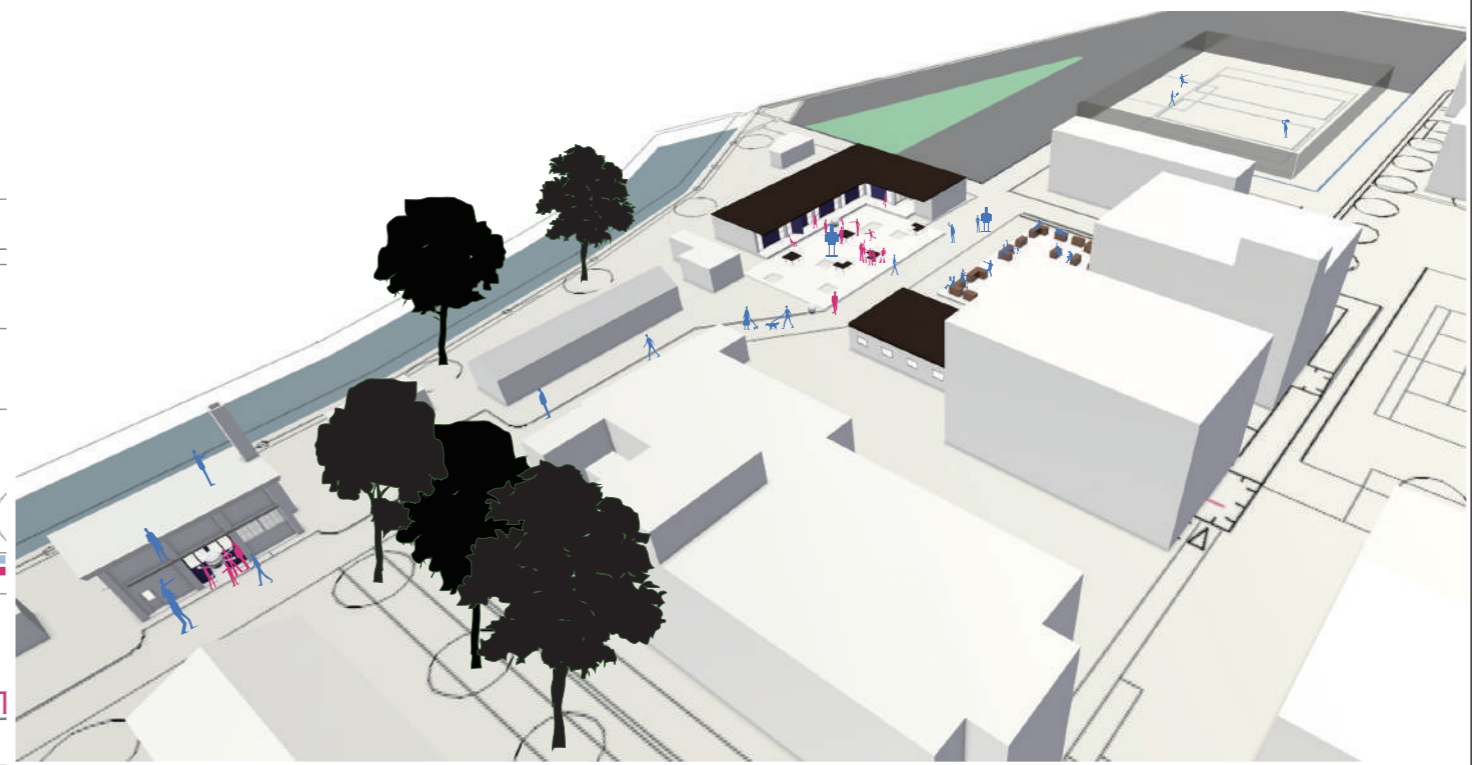
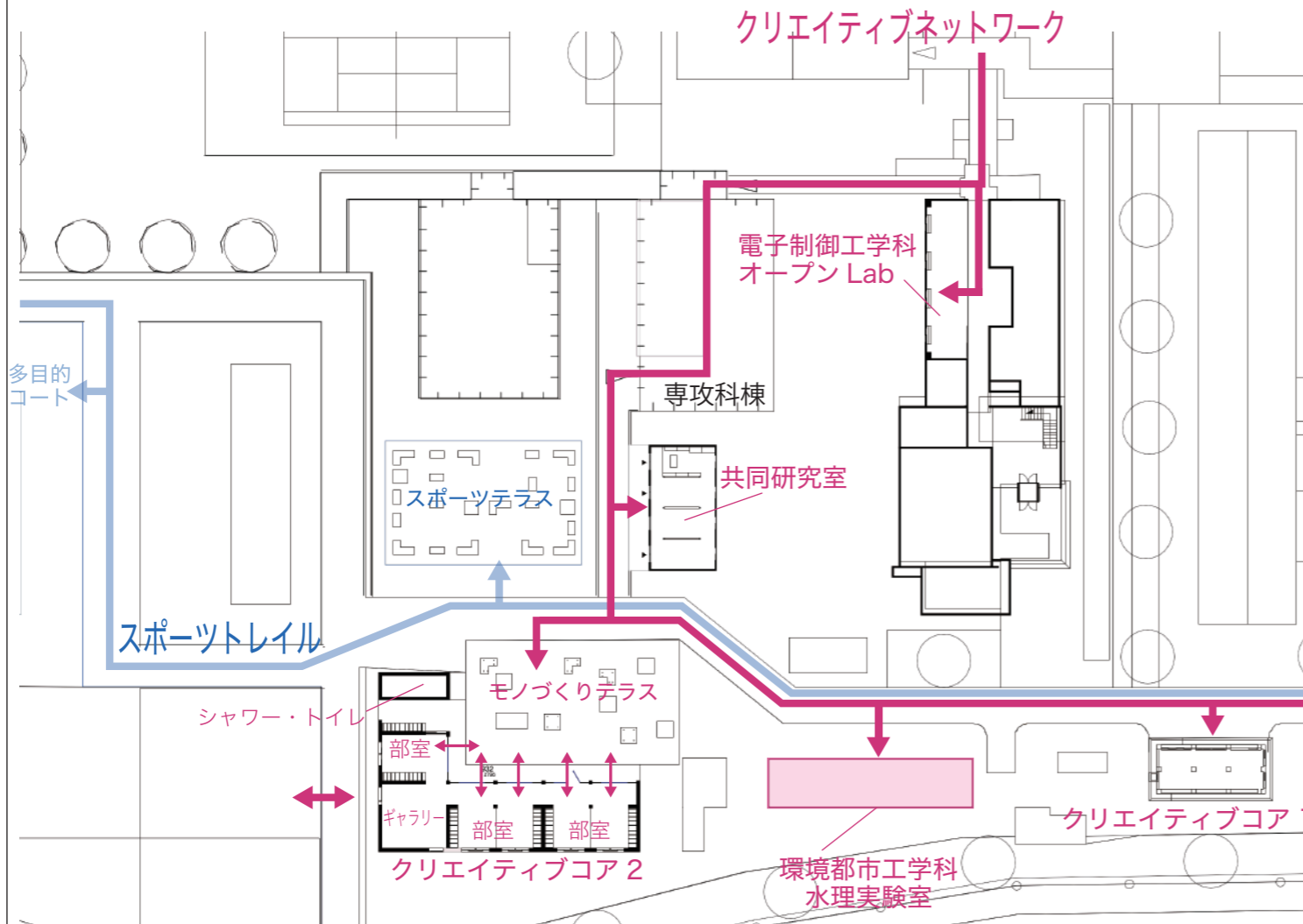
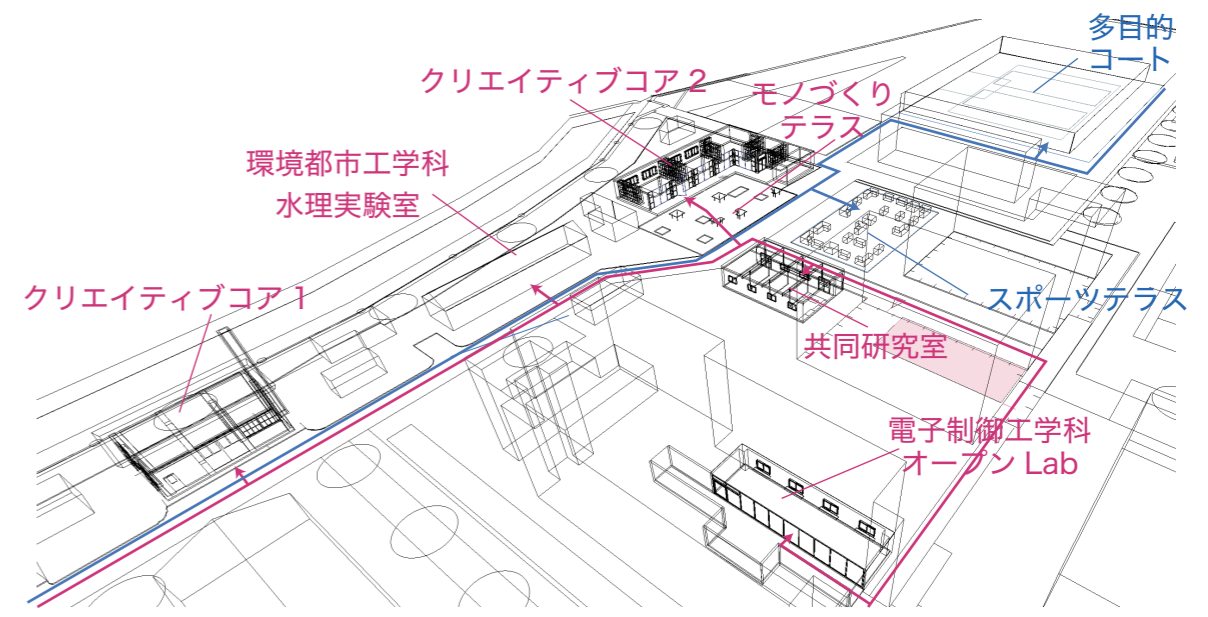
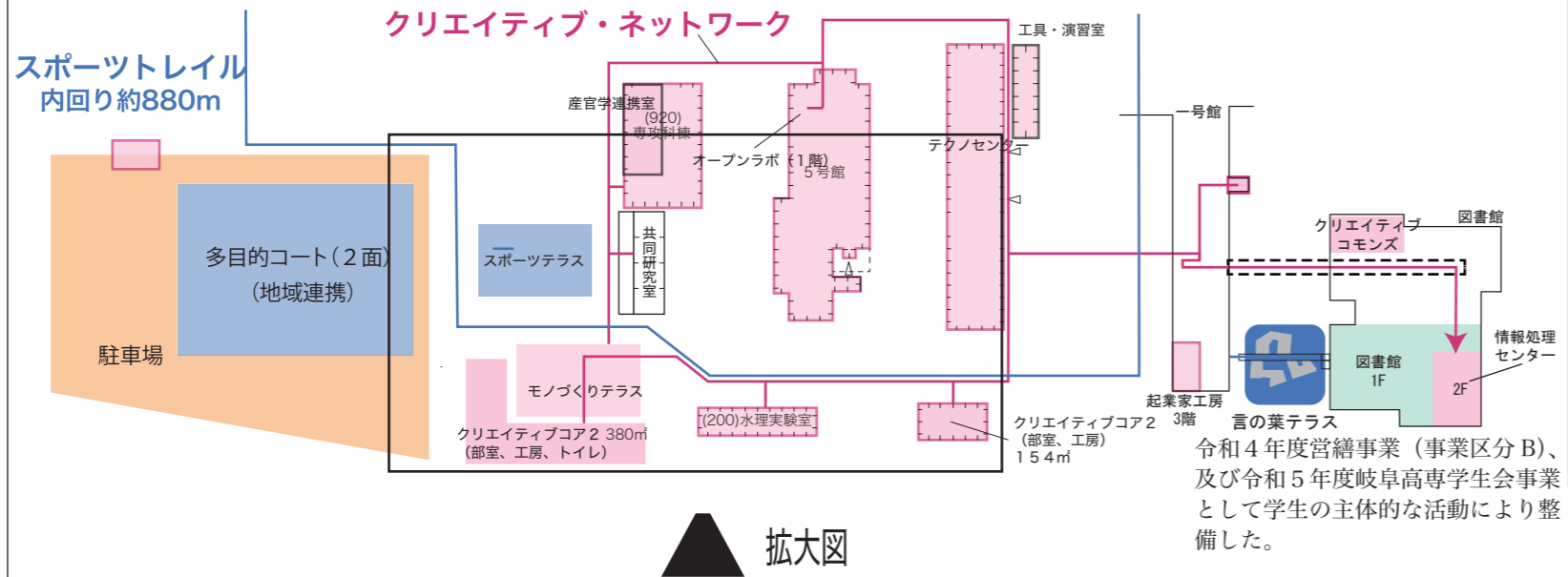
棟番号	棟名称	建築年	構造	区分名称	基準整備面積 (m <sup>2</sup> )	加算整備面積 (m <sup>2</sup> )	計	計画			プロジェクト
								項目	名称	内容	
81	5号館	1990	R	高専教育・研究施設	2189			改修	オープンラボ (仮称)	1階部分を学生の活動場所及び企業と連携したモノづくりスペースとして位置付け5号館 (電子制御工学科棟) の改修を行う。	クリエイティブネットワーク
81	5号館	1990	R	高専管理施設	20	15					
82	5号館	2016	S	高専教育・研究施設	63						
25	ボイラー室	1967	R	高専設備室等		154	380	用途変更・改修	モノづくりコア1	用途変更し、複数のモノづくり系クラブ活動の共同部室兼工房とする。	
65	屋外便所・シャワー室	1977	B	高専体育施設	28			移設・建替	モノづくりコア2	施設面積を集約し、文化系クラブ活動の共同部室及び、放課後のモノづくり活動の工房とする。	
24	クラブ室	1966	S	高専支援施設	160			移設・建替			
47	屋内運動場	1971, 1977	S	高専支援施設	192			廃止			
17	テクノセンター	1965	S	高専教育・研究施設	672		239	一部改修	テクノセンター	一部居室を統合し、木質系材料の加工場を設けることで現在、テクノセンターに欠けている機能を補う。	
17		1969	S	高専教育・研究施設							
88	工具・演習室	2011	S	高専教育・研究施設	91			現状維持	工具・演習室	放課後モノづくり活動の活動スペースとして活用する。	
86	専攻科棟	1997	R	高専教育・研究施設	1160			改修	専攻科棟	地域企業との連携を発展させるため専攻科棟改修と連動して、現在福利施設2階に位置する産官学連携室を専攻科棟に移転する。それに伴い、不足する教員室をクリエイティブネットワークと関係づけしやすい位置に増設する。	
	産官学連携室							移転	産官学連携室		
								新設	共同研究室		
27	水理実験室	1966, 67, 78	S	高専教育・研究施設		254	254	建替	水理実験室	老朽化のため、建て替える必要がある。クリエイティブネットワークを構成する施設として位置付け、大型水路などを外からも見えるようにデザインする。	
	敷地東側フェンス							撤去	—	安全面でも影響はないと考えられるため、敷地東の糸貫川沿いの歩道に面したフェンスを撤去する。	
								新設	モノづくりテラス	クリエイティブコア2に面した位置にモノづくりに関わる外部作業が可能なテラスを設ける。	
								新設	C.N. サイン計画	クリエイティブネットワークを明示するために舗道整備やサイン表示を行う。	
								新設・改修	C.N. 動線整備	1号館2階と図書館2階を接続する空中廊下を整備し、合わせてクリエイティブネットワークを形成する動線のバリアフリー化を行う。	
36	寮管理棟 (2階)	1969	R	高専宿泊施設	295		295	改修	ゲストハウス	学外、海外からの研究者の短期、中期滞在のための施設の整備を行う。	
72	第二体育館	1980	R	高専体育施設	880			改修	第二体育館	地域に開放されるスポーツトレイルと関連づけ、不足している機能としてトイレ、更衣室をジェンダーレス対応として計画する。	スポーツトレイル
40-57	職員宿舍	1966	W	高専宿泊施設		44-100	854	廃止	—	跡地を地域に開放されるスポーツトレイルと関連づけた多目的コート、駐車場として整備する。	
28	水泳プール更衣室	1967	B	高専体育施設		25	143	廃止	—	老朽化し、危険度の高いプールを廃止し、その跡地にスポーツテラス、モノづくりテラス、クリエイティブコア2といった再編機能を集約する。	
29	水泳プール機械室	1967	B	高専体育施設		11					
61	水泳プールスタンド	1975	R	高専体育施設		107					
								新設	スポーツテラス	スポーツトレイルに面した位置に休憩やストレッチが可能なテラスを設ける。	
								新設	S.T. サイン計画	スポーツトレイルを明示するために舗道整備やサイン表示を行う。	
								新設	外灯設置	外構にも広がるクリエイティブネットワーク、スポーツトレイルによる放課後の活動環境確保のために外灯を設置する。	
								新設	多目的コート2面	地域に開放されるスポーツトレイルと関連づけ、体育の授業や放課後も利用可能な多様な活動が行えるコートを設置する。	
								新設	駐車場	スポーツトレイルの地域開放の際に活用するため駐車場を設置する。	
31	寮食堂・浴室	1964	R	高専宿泊施設	220		717	改修	寮食堂・浴室	設備が陳腐化している寮食堂を改修する。	
31		1966	B	高専宿泊施設	25						
31		1969	R	高専宿泊施設	472						



# ■計画イメージ

<クリエイティブコア、スポーツテラス周辺整備イメージ>

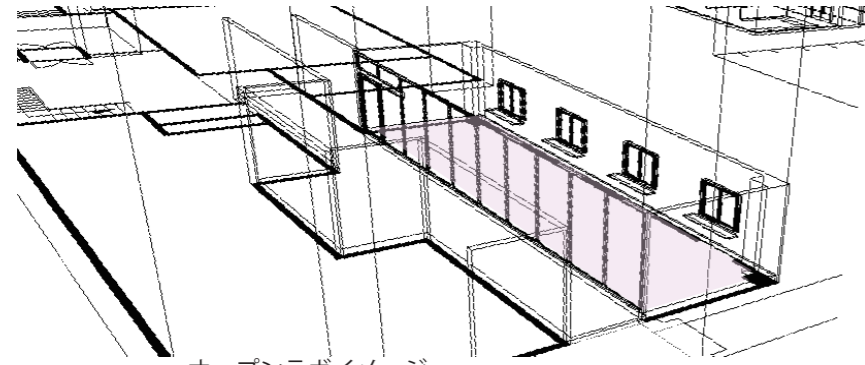
クリエイティブネットワーク (C.N.)を構成する施設群 (クリエイティブコア1・2、モノづくりテラス、電子制御工学科オープンラボ)が集積し、また多目的コート、スポーツテラスなどによって構成されるスポーツトレイル (S.T.) が交差するエリアであるキャンパス東南部は学生たちにとって授業を終えて集まり、能動的、主体的にモノづくりや運動を楽しむもう一つのキャンパスとなる。



### <オープンラボ（電子制御工学科）>

C.N. を構成するモノづくり関連スペースとしても位置付け、電子制御工学科棟1階に開放的なモノづくりワークショップスペースとしてオープンラボを設けた（既改修）。オープンラボは電子制御工学科のモノづくり教育の場としてだけでなく、学科や学年を超えた活動の場として活用することを想定している。

各学科に属する施設、全体で共有する施設が連携して構成され、全ての学生を対象とする C.N. では学科の特色も重要となる。そこで電子制御工学科棟改修に合わせ電子制御工学科のアイデンティティのデザインも行った。



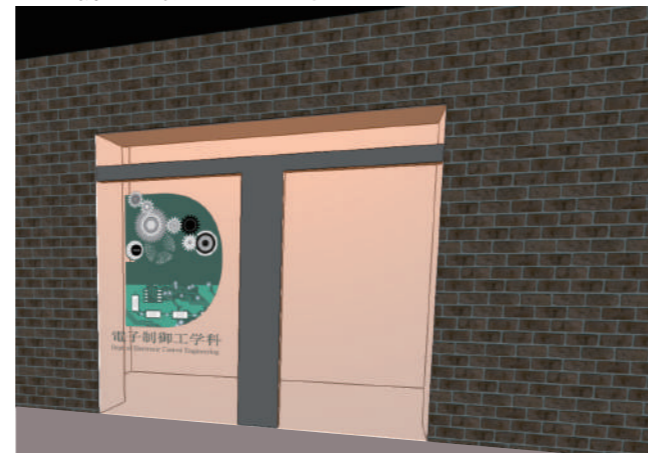
オープンラボイメージ



新たに設けられた開放的なオープンラボ



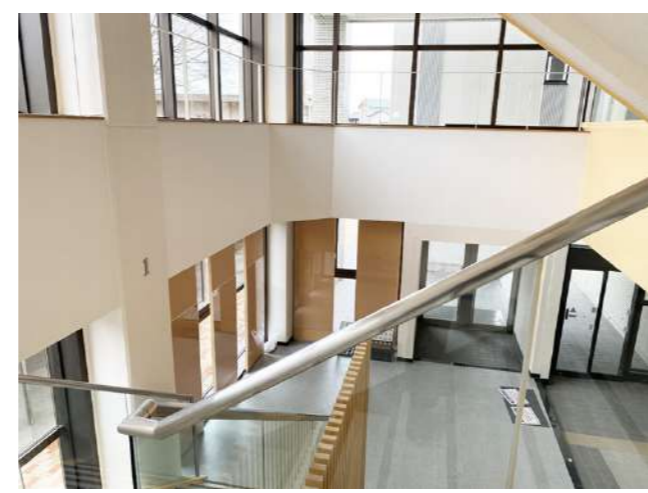
電子制御工学科共用廊下側エントランス（改修後）



電子制御工学科アイデンティティデザイン



コモンスペース



ギャラリー機能を備えたエントランスホール

### <言の葉テラス>

言の葉テラスは、岐阜高専図書館前庭に学生の主体的な活動によって整備された（令和4年度営繕事業（事業区分B）、及び令和5年度岐阜高専学生会事業）。計画に関わった学生たちは設計のみでなく業者の指導のもと施工も体験した。言の葉テラスの建設は図書館及び前庭の雰囲気を変えていくことになった。それまで使用されていなかった閲覧室と前庭をつなぐ入り口に職員の寄付による管理設備が設けられ直接出入りできるようになったこと、植栽が整理され閲覧室にも前庭から光がより入るようになったことによって、明るく開放的な閲覧室と前庭の連続性が生まれた。この改善された環境の中で言の葉テラスは休み時間や放課後のバスの待ち時間、図書館の利用の合間に学生たちがくつろぐ外部空間として定着している。この言の葉テラスもクリエイティブネットワーク、スポーツトレイルの一部としてマスタープランに位置付けられている。



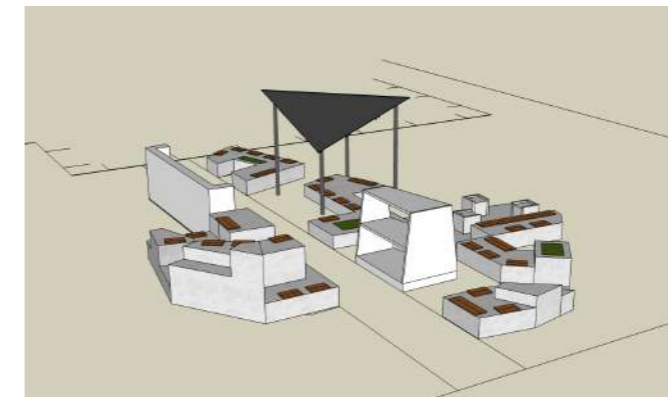
令和4年度整備後（鳥瞰写真）



施工体験



令和4年度整備後写真（前庭から）



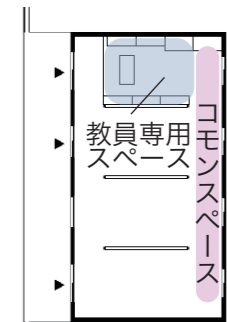
計画段階の言の葉テラス



設計・施工に関わった学生

### <共同研究室>

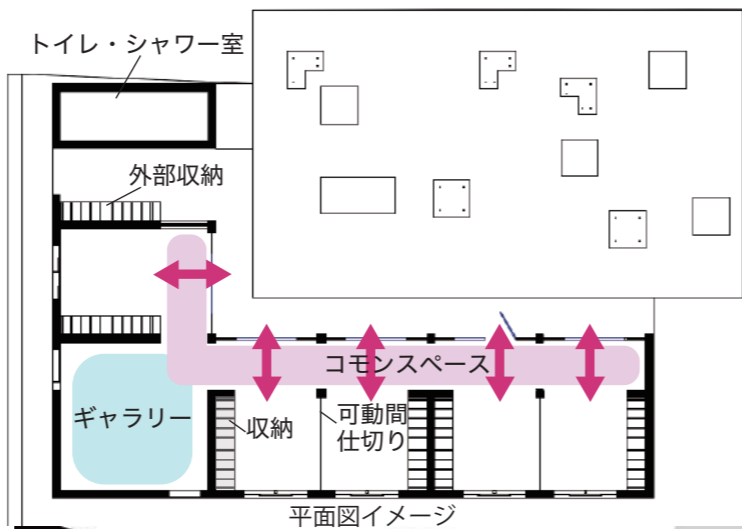
学科を超えて若手教員が利用することを想定した共同研究室を設ける。研究室内に各教員の専用スペースと連続した共有スペースの充実を図ることによって、学科にこだわらない様々な情報の共有を図ることが可能になる。また、C.N. の一部として位置付けクリエイティブコア1、2に近接する位置に配することでモノづくりに取り組み学生たちとのコミュニケーションも促せる。



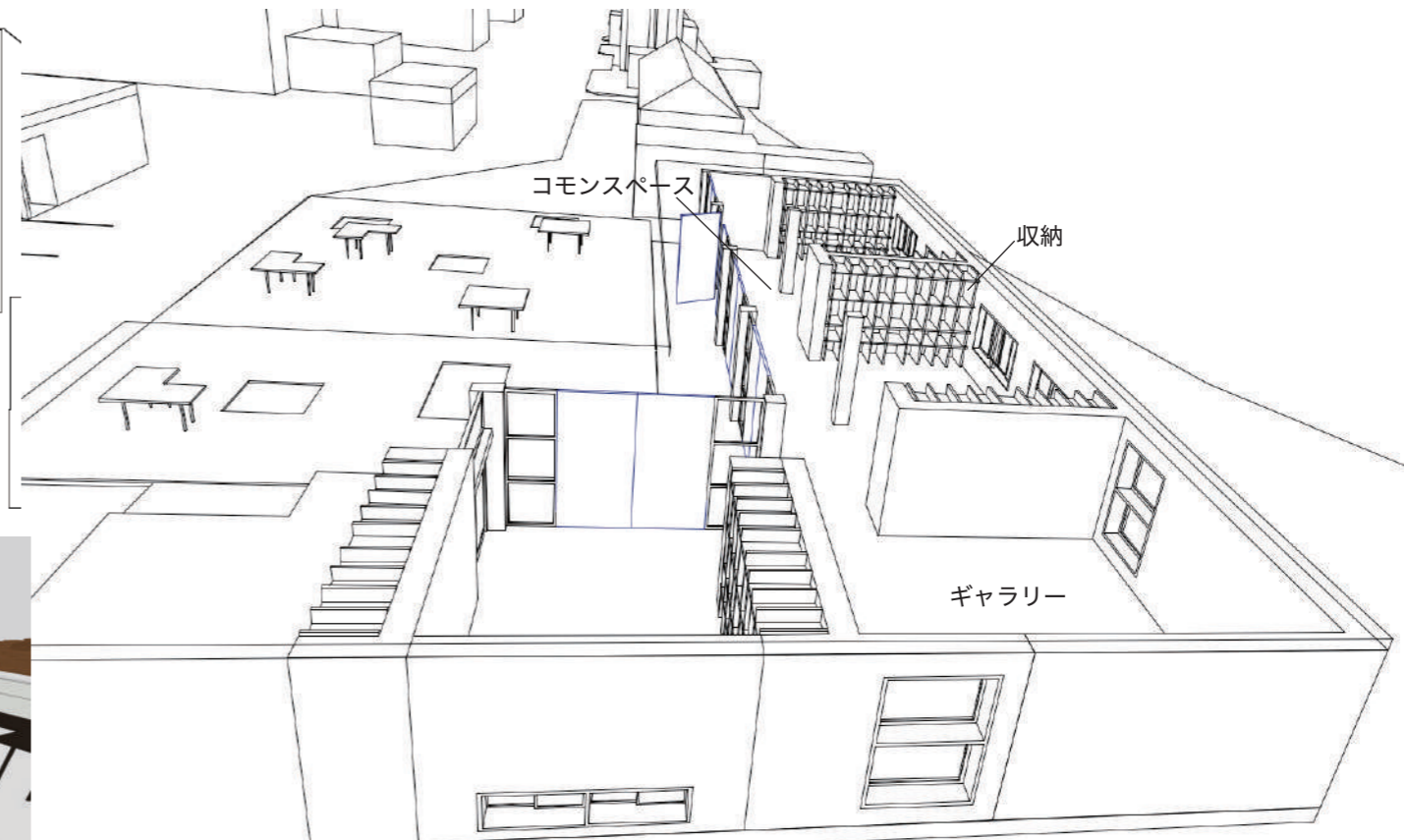
共同研究室  
平面イメージ

## <活動の広がりを生む「クリエイティブコア」－「モノづくりテラス」>

老朽化した文化系クラブ部室やシャワー室を統合し、建て替えるクリエイティブコア2は、ギャラリー、コモンスペースなどの共有スペースの充実や稼働間仕切りの導入によって美術部やエコラン部などのクラブ間の連携を促す空間とする。また、モノづくりテラスは休憩スペースとして使われるだけでなく、クリエイティブコア2との関係性を高めることで外部での作業や動作確認など場となることで各クラブのアクティビティを高めるとともにスポーツレイルを散歩する地域住民が高専の学生の活動に目を留める機会を生み出す。



モノづくりテラスイメージ



クリエイティブコア2とモノづくりテラスの関係のイメージ

## <駐車場整備ガイドライン>

専門的観点から、地域連携と関連する駐車場計画の検討を行った。ワーキンググループの議論では、学生の送迎車のロータリーを設ける案も出されたが、安全性の確保が難しいため、駐車場のみとすることにした。このガイドラインに基づき、計画時に詳細に設計を進める。



## ■地域連携プログラムのイメージ

### <サマーカレッジ・ワークショップ>

クリエイティブネットワークを構成する各施設及び宿泊施設などを活用し、在校生、地域企業や小中学生などを対象としたまちづくりや地域産業の振興、理系教育のためのサマーカレッジなどの公開講座、ワークショップなどを企画、開催する。

### <ロボット研究所>

機械工学科研究室と建築学科研究室が2021年度から関市の古民家で実施しているSTEAM教育プログラム「ロボット研究所」を定期的にクリエイティブコア1及び2で実施する。

### <キャンパスウォーキング>

週末にキャンパスを開放し、地域住民にスポーツレイルを歩いてもらう。途中、スポーツテラスでヨガやストレッチをしたりして楽しむ。本校元教員も名を連ねる本巣市スポーツマスターの指導を受けることもできる。

### <マルチボールゲームデイ>

多目的コートを活用して、テニスや3on3、など1日の中で様々な球技を楽しむ。

# ■施設整備年次計画

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度
クリエイティブネットワーク整備	5号館改修 (オープンラボ設置)			ボイラー室転用・改修 (モノづくりコア1) ゲストハウス設置 サイン計画・ベンチなどの整備	専攻科棟改修 共同研究室(新設)	テクノセンター 一部改修 モノづくりコア2 (新設)		クリエイティブテラス・ スポーツテラスの整備	
スポーツトレイル整備		安藤記念館 (屋内運動場)改修	第2体育館改修 (ジェンダーレス更衣室、トイレ)	武道館改修			多目的コート及び 駐車場新設		
運営効率化・合理化			2号館空調設備改修 C寮改修		教職員宿舎及びプール 屋内運動場廃止		寮食堂改修	6号館改修	

-Index-

大型整備予算で申請(既定)

大型整備予算で申請(新たに申請)

小額予算で申請

## ■施設整備マスタープランの実現に向けた体制の構築

この施設整備マスタープランは、継続的な改修や移設、建替を通してイキイキとした学生および教職員の活動の場となるインテリジェントテクノアスリートキャンパスを実現しようとするものであり、また持続的に地域との相互関係を深め、地域に寄与しようとするものである。このマスタープランの主旨を実現するには、個々の施設の整備を結びつけて線として繋いでいく必要がある。また、地域(行政、企業、市民など)との連携の仕組みを確立する必要がある。

### 1) 施設整備マスタープラン実現に向けた体制の構築

学内に構築するマスタープラン実現のための体制を図に示す。具体的には、整備事業の実行の統括者とした校長、事務部長は行政や企業との包括的な連携を担当し、クリエイティブネットワーク、スポーツトレイルに関連するプロジェクトを担当する副校長、教員、事務で構成される担当スタッフによって構成される。このチームは国立高専機構本部と各プロジェクトについて緊密に連携しながら事業を進める。また、地域との関係においては関連するプロジェクトについて、企業や行政と提案、交渉を行い、学内的には各整備事業のマスタープランとの整合性を検討し、計画の方向づけを確認した上で施設係など関連部署が具体的な整備事業、関連プロジェクトを進める。

### 2) 地域連携の枠組みの整理

活動プログラムの内容、施設整備への地域からの資金導入、施設整備、運営も含めて地域連携に向けて執行部(主管会議構成メンバー)を中心に検討を行う。具体的には、若鮎会(岐阜高専同窓会)記念事業、基金の設立、P.F.I.(Private-Finance-Initiative)やクラウドファンディングの導入など地域からの資金や技術協力の受け皿について、及び地域で活躍する本校卒業生であるエンジニアや地元企業の技術、ノウハウを活かした整備計画や整備後の活動プログラムなどが検討の対象となる。

### 3) プール廃止に伴う教育内容の見直し

- ① 授業科目「体育」における見直しについては、教務会議及び一般科目(自然)において検討を行う。
- ② 課外活動におけるプール利用のあり方については、学生会議において検討を行う。

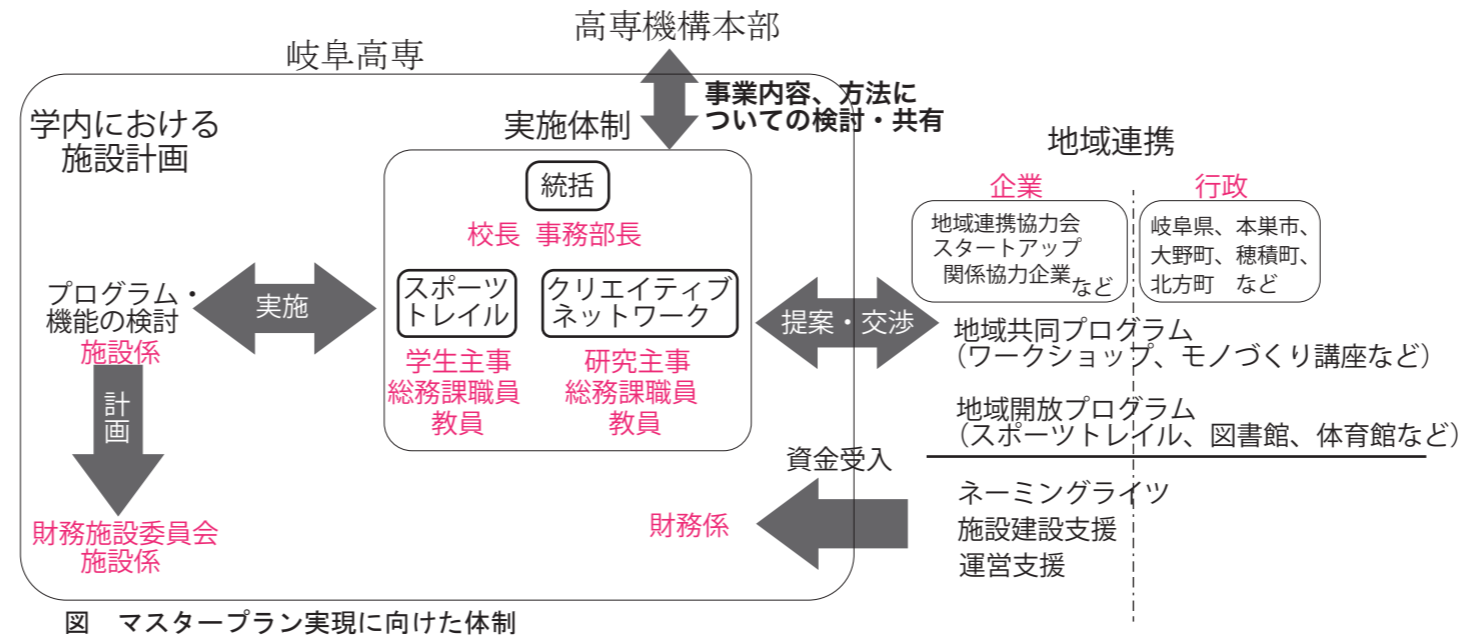


表 マスタープランの対象となる事業リスト

プロジェクト	名称	項目
ネットワーク	オープンラボ	改修
	モノづくりコア1	用途変更・改修
	モノづくりコア2	移設・建替
	テクノセンター	一部改修
	工具・演習室	現状維持
	専攻科棟	改修
	産官学連携室	移転
	共同研究室	新設
	水理実験室	建替
	クリエイティブテラス	新設
トスレポ	C.N. サイン計画	新設
	C.N. 動線整備	改修・新設
	ゲストハウス	改修
	第二体育館	改修
	スポーツテラス	新設
ポイール	S.T. サイン計画	新設
	外灯設置	新設
	多目的コート2面	新設
寮改修	駐車場	新設
	寮食堂・浴室	改修